

伊勢參宮名所圖會卷之三

同録

桑名驛

- 東國より桑名の入街道より別して津の江戸橋へ出れ
 其の沿道桑名を始りて桑名出を
- △江場有王九塚
 - △式部清水
 - △天武天皇御宮
 - △井尻神社
 - △三坂神社
 - △三重川
 - △退分
 - △矢橋
 - △白子
 - △同三崎大明神
 - △佐野神社
 - △太夫村
 - △矢田河原
 - △星川
 - △星川神社
 - △富田
 - △濱田
 - △天澤山龍光寺
 - △長古
 - △津嶋渡
 - △白子観音
 - △中臣神社
 - △尾野神社
 - △七里渡
 - △所登川
 - △所登川
 - △智山
 - △智山
 - △鳥出
 - △鳥出
 - △繩生
 - △繩生
 - △金舟
 - △金舟
 - △小向
 - △小向
 - △龍室山妙見寺
 - △龍室山妙見寺
 - △桑名湊口
 - △桑名湊口
 - △神野山浄土寺
 - △神野山浄土寺
 - △西富田三光寺
 - △西富田三光寺
 - △日田市
 - △日田市
 - △諏訪神社
 - △諏訪神社
 - △四日市
 - △四日市
 - △金井林光寺
 - △金井林光寺
 - △玉垣
 - △玉垣
 - △栗生神社
 - △栗生神社
 - △上野村
 - △上野村

昭和十六年一月十一日寄
 尼野貴英氏贈

△本送。押田。秘長
△衣手山
△酒舟神社
△根上り松

△江戶橋。箕石
△塔世橋。塔世川
△國府阿弥院

△津。安濃津
△愛宕權現
△惠月山。御寺
△阿漕浦。阿漕

△大樂心。官宮寺
△安濃松原。安濃津田
△岩田村。岩田村
△神宮寺

△岩田山。國明寺
△志布見神社
△小加良須御茶社

△浩見。乙部。玄庫
△志浦。雲津橋
△垂水。日成。秘寺
△藤瀨。片。榎宮

△望合社
△雲津川
△小野。右。江。渡
△須川。肥。面

△上野。茶。屋
△中道。小津
△六彩。茶。屋。渡。川
△阿坂。法。眼。寺

△曾原。古。城。跡
△白米。城。跡
△下方。片。榎。宮。舊。址
△東。明。山。景。德。寺

△忘井
△久米。塚。本。江
△利。隴。山。藥。師。寺
△已。五。百。森

△松坂驛
△愛宕山。龍泉寺
△光明山。遍照寺
△少。名。名。名。祠

△梅松山。菅。相。寺
△光。福。山。朝。田。寺
△長。田。祠
△川。鷲。清。水。法。眼。寺

△七見。日。津。社
△意。悲。津。社
△下。榎。小。川。下。榎。小
△榎。回。五。智。如。來。大。撰。津。社

△榎。田。川
△津。麻。績。機。殿
△魚。見。社
△大。國。玉。津。社

△保津。又。香。山
△再。拜。橋
△齋。宮。村
△齋。宮。村

△齋。宮。齋。而。蹟
△同。繪。馬。大。佛
△苑。園。御。溝。池
△御。袋。山。淡。村

△北。島。屋。發。趾
△勝。回。和。屋。翁。塚
△藤。原
△宇。回。大。刀。自。津。社

△根。倉。日。津。社
△大。渡。大。渡。松。約。漆。池
△村。松。岸
△明。星。安。養。寺

△有。尔。有。尔。津。社
△湯。回。野。日。津。社
△上。野
△小。窪。橋
△小。俣。無。量。壽。寺

△明。野。原
△熱。合。橋
△離。宮。院。津。社
△志。曾。濃

△板。田。橋
△離。宮。院。津。社
△志。曾。濃

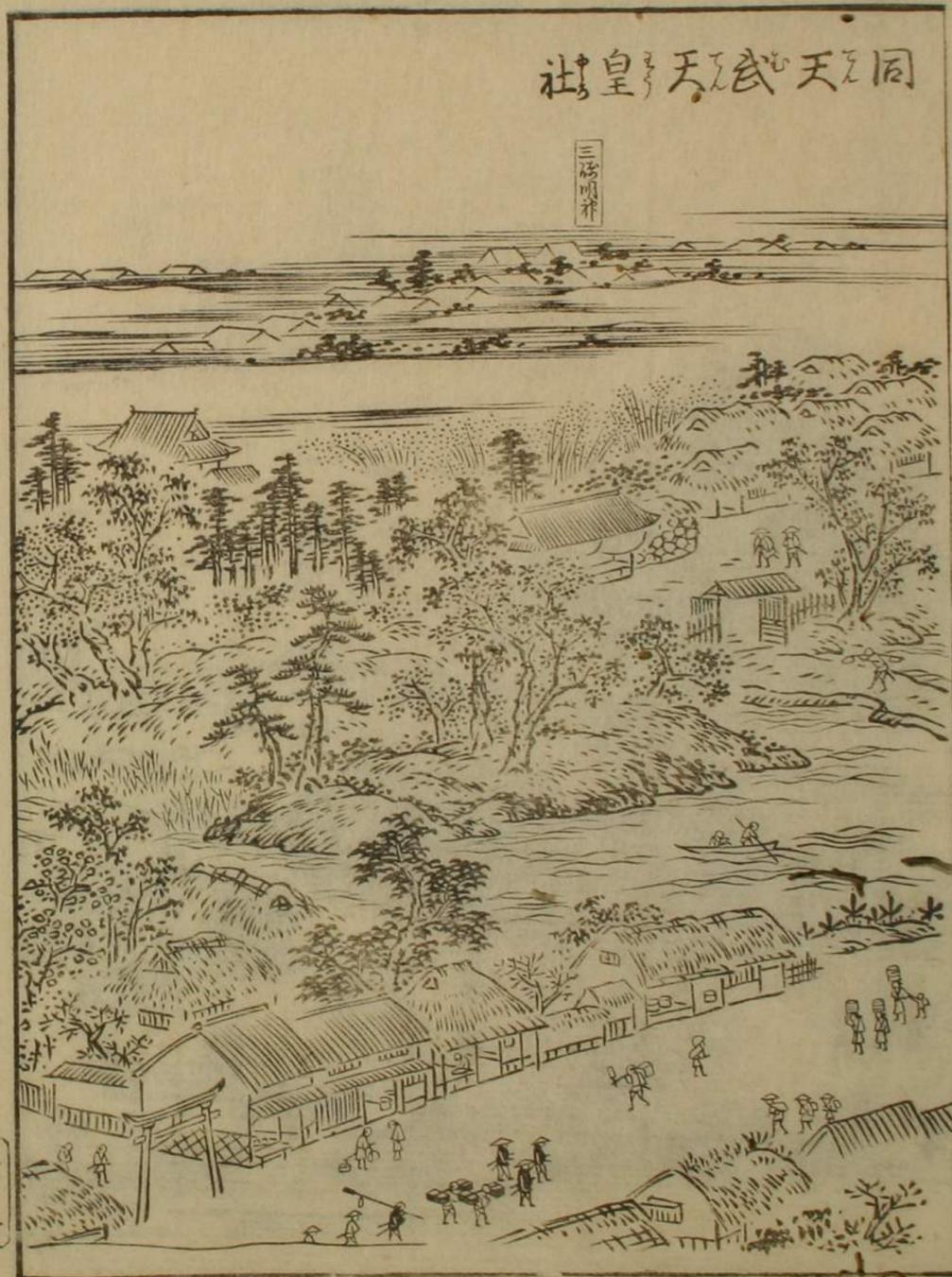


羅山文集
 曾聞二帝此停車
 憾在吾邦未見書
 今問先蹤人不識
 誰廣風土補方輿



同天武天皇社

三石明神



三ノ二



其陳國より桑宮の人海道より別きて津の江戸橋へ出た

▲桑名驛 城あり文禄年中一柳右京大夫榮く不也人家一々余

新富商多く繁昌の湊あり云産多し又向ひの勢加長崎より一

ついで首領着氏領地あり 此河の北三里にして本曾川のふがさの上勢加長崎の湊

其津社一曰連社とてましまし天目一箇命之神發ありて年々一返夜ハ龍神とて

暴風拔本うらなり其地甚は深の地して天目一箇命之神發ありて年々一返夜ハ龍神とて

又石ま日本武尊の御田に於て富津の若の尾津ありて年々一返夜ハ龍神とて

今こと津と澤とあり武尊の御田に於て富津の若の尾津ありて年々一返夜ハ龍神とて

て桑名一陸つさかり又船橋も桑名より三まをこへ尾張國は一まをこへ

▲桑名神社 式内之祭不天櫛命云 信又三寄明神と云是なり

桑名市中より往て桑名の方あり○社傳曰く景行天皇の御宇天武天皇

大友の皇子をさして皇后りるも皇孫ありて天武天皇の御宇天武天皇

神を祀りて此地又皇后をともめ船つて尾張國入る御宇天武天皇

十面觀音菩薩三種の神ありて此地の地味なりて安調羅羅の女御ありて

ぬまの尾張國の合戦ありて表し三寄明神と申すことと云空に云はれ

○中臣神社 式内春日大明神と云 昔は依見院正應年中八月十八日

麻一まより杜麻よのりて海原や此桑名に依見院と云

毎年七月十七日祭礼 俗はひまをなかりと云ひまをなかり

ありて第十七日を試樂と云ふ公より社於御寄附領主も尊敬あり

て當所第一の神社あり 中臣の神社ゆへ春日大 ○袖野山浄土寺 桑名の

あり浄土宗を尊阿弥陀如来 ○江場右王丸塚 中桑洋 ○佐野神社 桑名の

魚登川 系神推成彦命 ○尾野山尾野神社 素盞鳥尊 系神云 桑名の

瀧室山妙見寺 桑名の説光丁計本 桑名の城五桑名少将祈願所にて公伏寺

あり ○式部清水 此の西の林ありあり 和歌や都を具来りて位々の

○古ま村 桑名の村ありあり 代神樂獅子舞六組又三重郡阿倉川村より

七里渡 旧名間遠の渡より天武天皇尾州勢田遷幸の時此渡海長

きよりて間遠と伝ありて是渡を待美路といふ

みちの月よりをのりて里に急ぐ夜半の舟人 不知渡人

此渡りの舟勢尾張の淺本曾川の落合此みちの舟あり 昔附の尾は依谷へ

里渡りて依谷より陸地の神あり鳥森をなす 廻り出ると依谷の上半里又海原津





代神樂の素名の
 近村を交村の
 祭を代々つとむ
 庚甲の代結入の代振
 離々の月物たるべし
 放下とぬとす其た
 をまらに



長明渡海記
 日永追分
 ひよがのまひまけ
 仍作ぬ
 いさ漢
 立
 ちん
 新明
 あさけ
 日永
 ひよが
 ちん
 ちん

海濱園半次天皇まゝと
附伊勢抱治 赤いあまのひて東の方より多る小伊勢や尾張の海面を約し浪のつと白くうをきて
いとしくおひるれをききに浦とくくもゆる浪う那 業平

▲素名御船場 海上より船の目高焼常夜燈番本の殿あり

▲天武天皇御宮 素名の所より北西斗西南文田村より信濃の社より人の羅山紀約百首は足
皇居此地より不破園(常幸の御宮)より御幸ありて此城の宮より信濃の社より

▲矢田河原 今ハ矢田町と云 天正十二年十月豊臣氏方吉
御田信雄と頼隆とす

▲城山 矢田一節左衛門尉麓三永禄十一冬御田右府信長公これを誅

伐と ○三女狐 此より多く人はいり

▲町屋川 橋の長サ百六十石あり西の面よをこのふ

▲繩生 小向のつさねより 昔も令総の驛と云り ○金井 磯村と云 即令総 ○伊

勢遙拜所と云り神戸の路ありと云

▲小向 松寺の ○井尻の神社 今神明と云り 祭神まふ益鳥尊式内之花也

右城の路あり是を材の城と云 沼本三河入る宗喜権斎を弘治三年に依本

所名 ○星川 船守の細き流と云り ○安渡寺 本尊観音

天津星川漱し影のうはる夜安のけりと云ありの哉

安渡川やとの流とも天の川のゆかりと云は安渡寺を此方の言より名けり

▲星川 松寺の ○星川神社 所祭織姫の神式内なり

▲朝明山 素名と日市の間たより云り ○船明川 海道より 長明

子の孫なる朝寺のころま風り霞をまけて花を散る 定家

▲西富田三光寺 蒔田相摸守墓を文治三年一院御領にて舟回

と其所の守護人なりと云 ○立坂神社 式内祭神若字賀賀命

あり此社の境内より流る川を米苗川と云

▲富田 日市か 名産焼蛤 ○多田神社 多田村の内右 式内之不祭鳥

▲鳴海神 但社傳とお遠あり

▲日市 日永村二里 宿駅あり人家五六百軒海陸便よく惣島の地

毎月六日市あり日市より神るを号く此湊二町遠流あり

後海御免に^{イハナ}素名と曰^{イハナ}と云

○諏訪神社 祭不建御名方命八坂刀賣命之^{日田市所}其地と江^後花田と云此社も赤坂家の重宝田原及秀々の胃あり

○三重川 日市市の町内石橋あり^{日市}又茶より流と出る川あり^{日市}俗に三三三川とも云

吾等三重川系のはら^{日市}れ^{日市}り^{日市}かもと^{日市}く^{日市}むも 伊保磨

濱田 日市市あり

日永 日市市の^{日市}き^{日市}進^{日市}か^{日市}り^{日市}て^{日市}り^{日市}名 産園扇 ○田畠川 ○長田川 ○

かえけ川 ○落合川 ○鏡龜川 ○加太支川 皆橋あり日永町の中より長田川へ長田町へ流るる川あり

四足八鳥山観音寺 日市市へ北よりあり

忠上人 傳云神武天皇東征の時軍刺あり^{日市}太神宮神依りて八咫鳥を^{日市}は^{日市}り^{日市}は^{日市}り^{日市}と^{日市}り^{日市}陸路と云ふもこの史あり^{日市}に^{日市}八咫鳥の上より^{日市}を^{日市}り^{日市}と^{日市}り^{日市}又此を^{日市}日市大和森と云

昨日より^{日市}々々^{日市}と^{日市}い^{日市}ま^{日市}い^{日市}日永なる洲橋に^{日市}る^{日市}り^{日市}り^{日市}乃一村 西行

退分 分退の修勢あり 大鳥居あり

高岡川 飯橋あり泉川関川の流りて大川之此上流を甲斐川と云

○天沢山龍光寺 日市市の後花園院勅願所北畠大納言滿雅公建立云

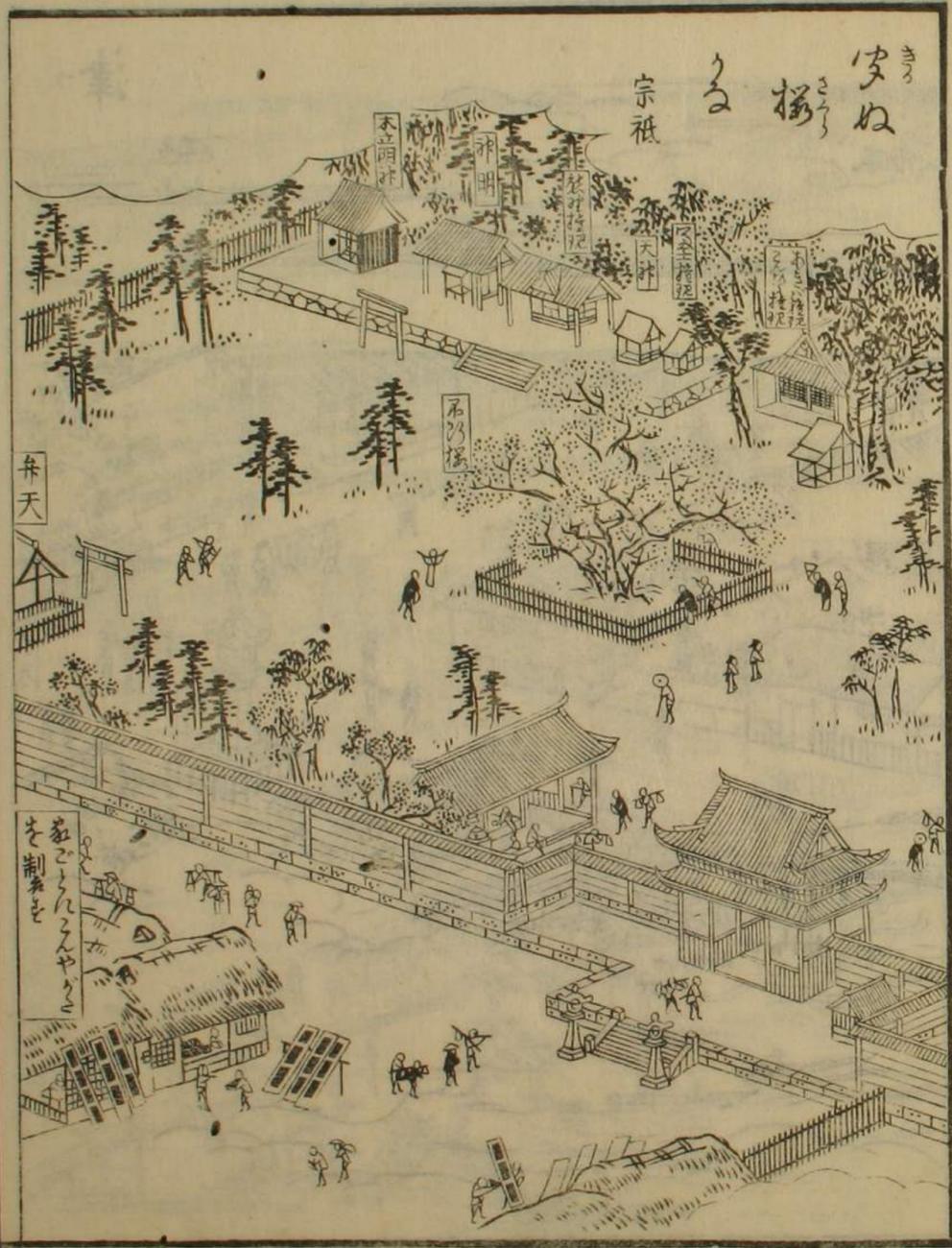
○飯野社 日市市の町あり 祭神飯豊姫命

○金井林光寺 日市市の町あり 祭神飯豊姫命

世音福壽院亦号地藏坊善言宗之

○長古此浦津橋の流るる古渡之 昔は尾石津橋の渡海あり^{日市}が^{日市}碇^{日市}所^{日市}あり^{日市}糸^{日市}より^{日市}は^{日市}れ^{日市}海^{日市}り^{日市}中^{日市}に^{日市}ぬ^{日市}り^{日市}り^{日市}む^{日市}け^{日市}で^{日市}る^{日市}る^{日市}云^{日市}ね

舟人のつゝまのつゝり波たぐと^{日市}り^{日市}ま^{日市}り^{日市}や^{日市}これ^{日市}せ^{日市}り^{日市}る^{日市}ん 中務卿と云





所名

郡藝奄

○若松（重聖）海濱松島之漢之天平十二年十月聖武天皇修勢國約奉の府

いし多りの松原見渡せば波千のこまの鳴まうた 御製

○三田市 野西の如來寺延壽常勅額不うて三尊佛。ち子像あり

玉垣（白子）右名瑞垣の里と云 ○弥都加伎神社式内にて糸井土植作

白子（本名寺）南の奄藝郡より小川の限里川

曲郡之人家一軒餘鯨魚の漢也（此を白子と云ふ）素麴 緋衣形名産

○白子漢 白子町の事

附言 昔平家頼朝の時修勢國の若とも黨をよそ上総女忠清足元配 右 多の白子黨といふ 治承三年八月高倉宮御むらん宇治合戦のとき後白子 代より一川より白子寺を分たす川又なるがぬらぬらして細

所名

盛表記 修勢武若るまひせぐれ程きて宇治のありけりまをる哉 一書は修勢武若るまひせぐれ程きて宇治のありけりまをる哉 白子黨もまひせぐれ程きて宇治のありけりまをる哉

白子観音 美言宗之 聖武天皇御願所淡海公天平勝宝年中建立白

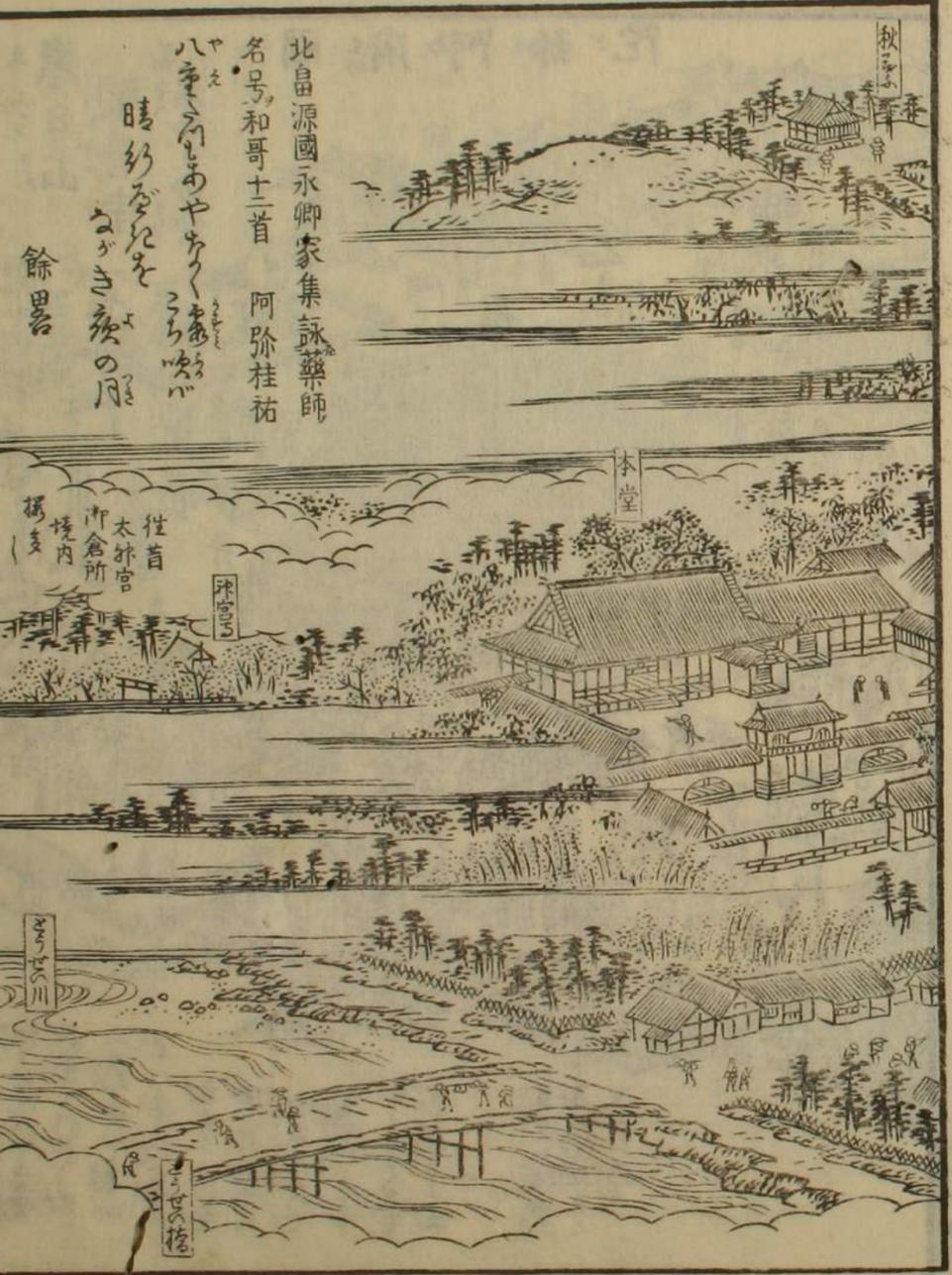
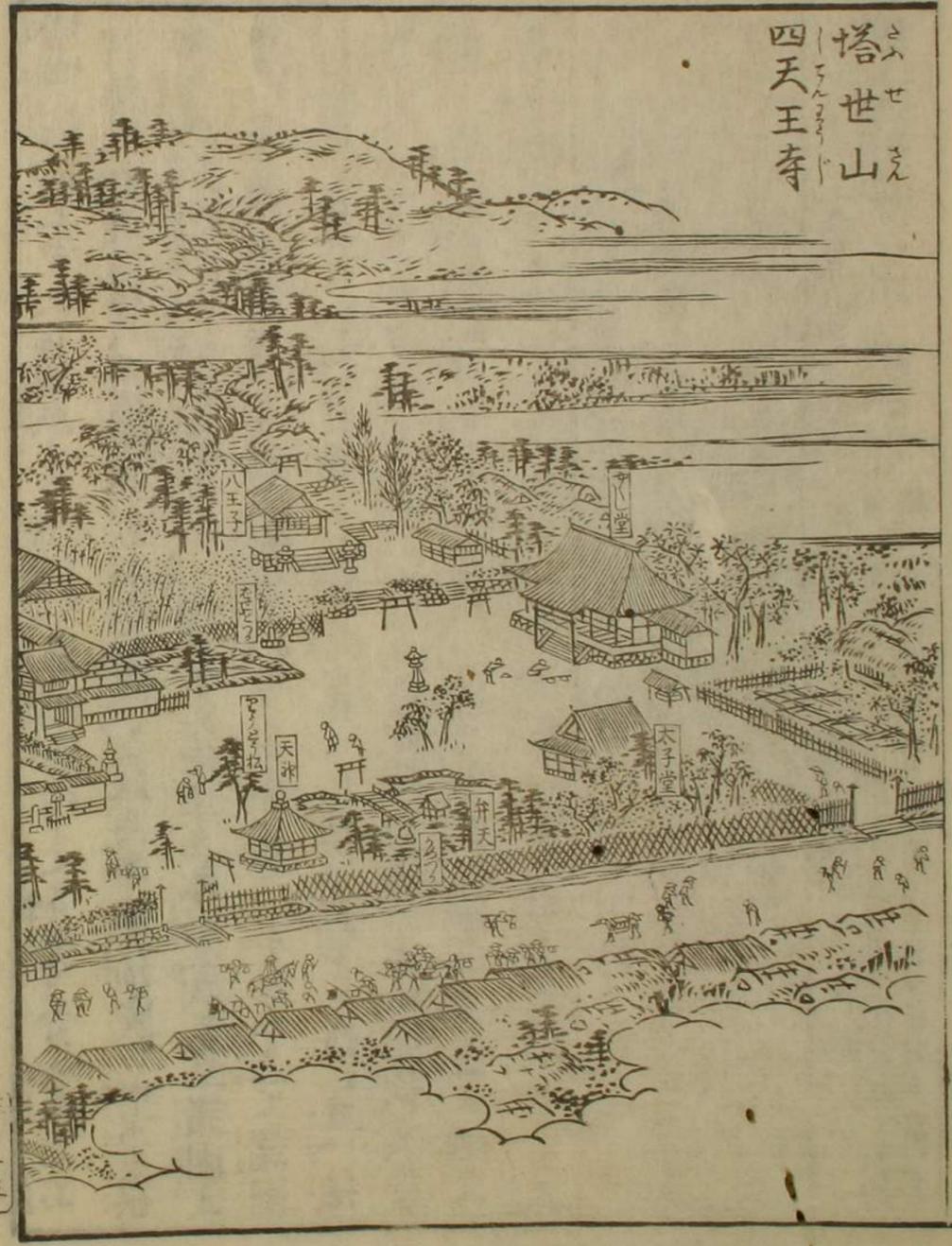
子観音又子安観音とて婦人妊娠は是を祈る 比佐豆知社本苑園耶 姫命と云ふ観音寺も此宮寺也と云今御の神社をいふ式内あり

栗真神社 白子の式内 糸井兵部織姫今勝名大明神と云 大宝天

皇社糸井素盞鳴尊 青龍寺 高田流中 春日大明神社 己上在

上野村 宿驛也 尾糸神社 式内にて糸井天祖女命 弥尼布里大明 神社 今御の神社と云三社ままと一社の輪渡社一社の聖宮

塔世山
四天王寺



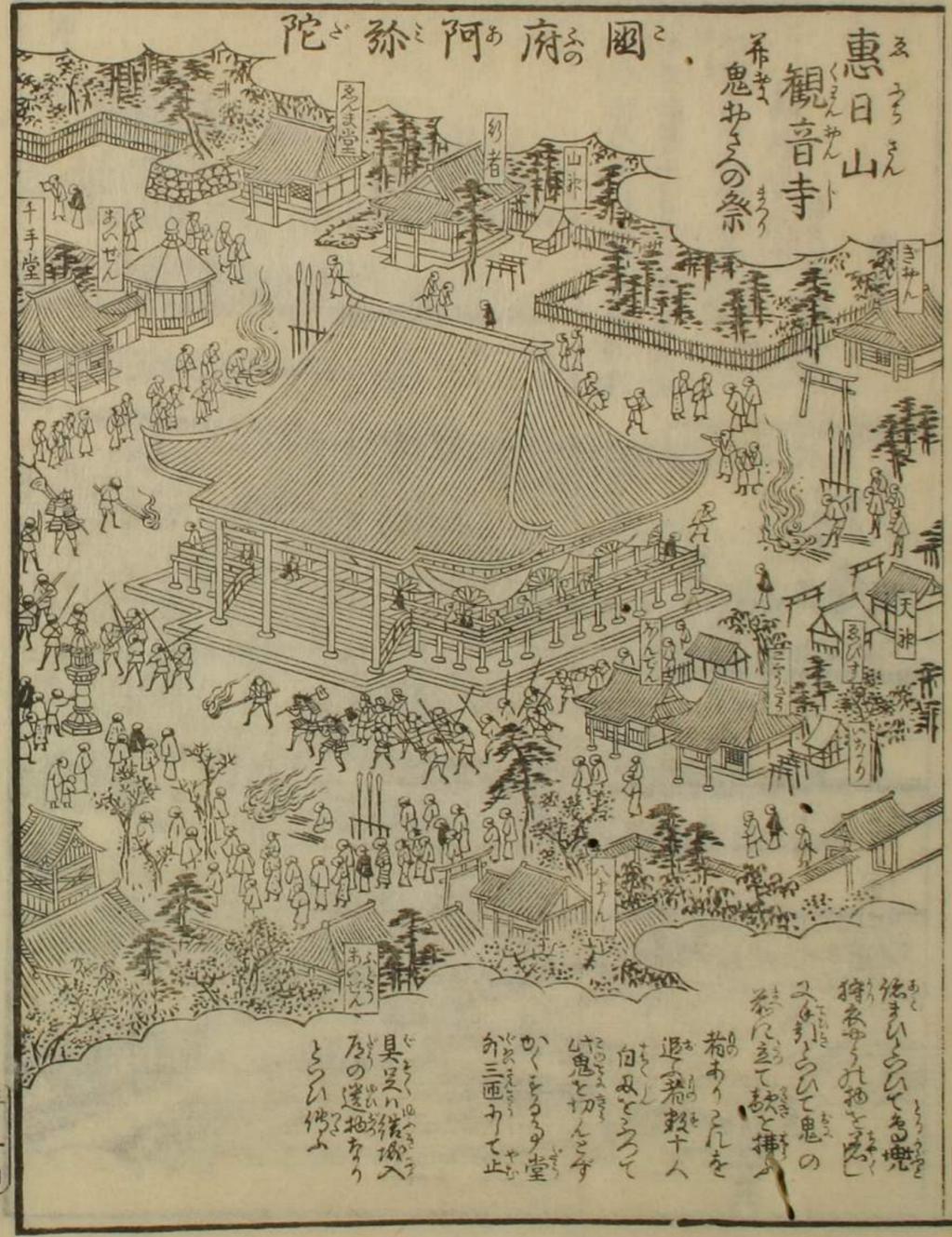
北畠源國永御家集詠藥師
名号和哥十二首 阿弥桂祐
八重高もあやかくら
晴夕を
ぬき夜の月
餘思

往首
太外宮
内倉所
境内
橋

三十三
三十三



御前二月朔日御
 えて後堂内より
 ち教丸調ふおハ
 庭の若葉と花
 梅はさきて観十人
 軒軌院の花はさか
 茶庭くして思沙門一
 人太極子琴柱とくけ
 立出の鬼も具足して
 茶を拵今を人々
 決櫃と提げ弁堂
 交入るこは又付流者



國の府の阿弥の陀
 惠日山
 観音寺
 鬼おまの祭

徳まいのいひてお境
 持たせうれおとて
 又おまのいひて鬼の
 祭に立てておまの
 荷あつてこれを
 退治者數十人
 白あつてつて
 鬼を切んとす
 おくそつて
 外三箇方て止
 具足の後城入
 石の遺地なり
 とつていひ



阿漕の芝紙の
 意を寫し尚本意ハ
 阿漕の糸ヤよ
 也



阿漕浦

後照念院
 関皇政大臣
 阿漕の
 意を寫し
 尚本意ハ
 阿漕の糸ヤよ
 也

西の法師垂水成龍寺へ
 参りて小童侍の本
 うまのけりてをを
 ころ見と
 ころ見と
 ころ見と
 ころ見と



所名 所名

あは津の町と海との間みありしと也
昔は松東邊へも大船が
 凡そ其よりしきわととの

いせの海あり松東のいせもいせ一日救ふるもいせ
 為家

安濃湊田 お濃をたの湊田のつとめかぬもいせぬあつたり
 長明

安濃河原 神凡やいせとつとめかぬもいせぬあつたり
 尊俊

又あつ板橋のあつとも説くあれが略之ともいせ地未詳

岩田橋 南の岩田のつとめかぬもいせぬあつたり
 隆俊法師

に當城の岩田口と云ふ附あり

あつばけ板橋のあつとも説くあれが略之ともいせ地未詳

岩田村 南の岩田のつとめかぬもいせぬあつたり
 隆俊法師

北畠材親郷の記ありん(り) 隆俊法師

所名

阿古本浦 今津の城下岩田橋より異なり
 ○阿古本場 住家の阿古浦より東の方
 阿古浦 今津の城下岩田橋より異なり
 阿古浦 今津の城下岩田橋より異なり
 阿古浦 今津の城下岩田橋より異なり

所名

此處より漁舟をくりきり津の入海は其の船を社記曰祭神天津
稚女稚日女命とて伊勢諸伊勢冊御子天照古神の御妹にて
かゝります欽明天皇の御宇津國治田長按國よりかゝらすの地
にうつり給ひ交野の神とて教多彦をかくる人の敵を満給ふ
神代卷に神の脊股に鐵鐵せ給ひ一附まのその神船を達利にて
お入給ひ一附りて給て授けりて給ひて給ひて給ひて給ひて給ひて
氏の加良須考とて書をのん小社記より遠へ小加良須社を加
良須女の御子天水中至命とて度會延經の神名帳考證ふ
稻系の神社とて云説も破せり其辨説長文にてを引證ふ
因てこれを畧と其書とててるべし

▲星合祠

星合村 小祠七座を多る 此不背入はかり友星合
云波多神社也 不祭 棚機姫神 友星合神とて

神名帳

○按る星合村を稚日女命御殿に神衣を織とひ又古徳拾遺に棚機姫神
傷身死らふあり此よりよれおらすの神社に付る義あり尚考ふ
伊勢の海名に記りて浪枕かやとて星合の海

九条内大臣

所名

▲一志浦

十載集にせ給やつりの浦の名 一志浦や月のこころのうたかた吹雪
あまのついでに神のぬき物なり 所 ▲雲出寄 海がさたの松のわらま 大守 親守

垂水

津の浦 垂水といふの浦地の古名をいふは垂水といふは一人を垂水の君とて其の二
の孫阿理真公孝元帝の御時より高榎と造て早懸と敷を改て垂水と場

垂水山成就寺

長法寺とも云ふ 垂水山成就寺 貫の寺名を考證し給ふ元龜の兵史に
退治せり今いふ所の小寺の村の内あり余考ふに

藤瀨

瀨の浦一里 藤瀨といふ浦ともいふて右の藤瀨 村中本三抱斗ありて是又
宮の内國にて九斗内宮へ載せり是を焼出の里といふも一友方の御石とてありこれ
小島國司のかゝる方刑部少輔入る慶田住り

片樋宮

村の内友方の森あり一里一里片樋の宮ありて是又
建文元年良子内親を考證す

上野

村あり 高茶屋 茶屋ありて是より勝天の
○小森 十社の宮あり是は神守

島貫

雲出川 島貫村あり 雲出川 島貫村ありて是又
河を流しよとて雲出川とて

○雲出川

島貫村あり 雲出川 島貫村ありて是又
河を流しよとて雲出川とて

○高茶屋

茶屋ありて是より勝天の
○小森 十社の宮あり是は神守

○小森

十社の宮あり是は神守

○島貫

島貫村あり 雲出川 島貫村ありて是又
河を流しよとて雲出川とて

所名

雲津川せれ入くまける苗代は秋の産と兼て入る

所名

小野古江渡 小野の流も三指不洋 糸清記云 雲出川の又と波を去のこ小野古江に

所名

須川 雲出川の豊倍 須川 須川 須川 須川 須川 須川 須川 須川 須川 須川

所名

曾原 須川曾原の由里之権原の源 曾原 曾原 曾原 曾原 曾原 曾原 曾原 曾原 曾原 曾原

所名

三渡濱 曾原村の左の溪今三渡濱 三渡濱 三渡濱 三渡濱 三渡濱 三渡濱 三渡濱 三渡濱 三渡濱 三渡濱

所名

中道 此より右の道の定のりあり四指と云 中道 中道 中道 中道 中道 中道 中道 中道 中道 中道

所名

六杉茶屋 又三渡村にも三杉茶屋 六杉茶屋 六杉茶屋 六杉茶屋 六杉茶屋 六杉茶屋 六杉茶屋 六杉茶屋 六杉茶屋 六杉茶屋

所名

阿坂山 一名神屋 阿坂山 阿坂山 阿坂山 阿坂山 阿坂山 阿坂山 阿坂山 阿坂山 阿坂山 阿坂山

所名

阿射賀神社三座 嬉野 阿坂の社 阿射賀神社三座 阿射賀神社三座 阿射賀神社三座 阿射賀神社三座 阿射賀神社三座 阿射賀神社三座 阿射賀神社三座 阿射賀神社三座

所名

白米城趾 小島満雅卿意永三年築く 白米城趾 白米城趾 白米城趾 白米城趾 白米城趾 白米城趾 白米城趾 白米城趾 白米城趾 白米城趾

所名

忘井 柳を右入方より標石の記 忘井 忘井 忘井 忘井 忘井 忘井 忘井 忘井 忘井 忘井

所名

久米 按るに此古路一里むり 久米 久米 久米 久米 久米 久米 久米 久米 久米 久米

所名

利籠山薬師寺延命院 右あり 利籠山薬師寺延命院 利籠山薬師寺延命院 利籠山薬師寺延命院 利籠山薬師寺延命院 利籠山薬師寺延命院 利籠山薬師寺延命院 利籠山薬師寺延命院 利籠山薬師寺延命院 利籠山薬師寺延命院

俊頼

長明

阿保

三ノ丸

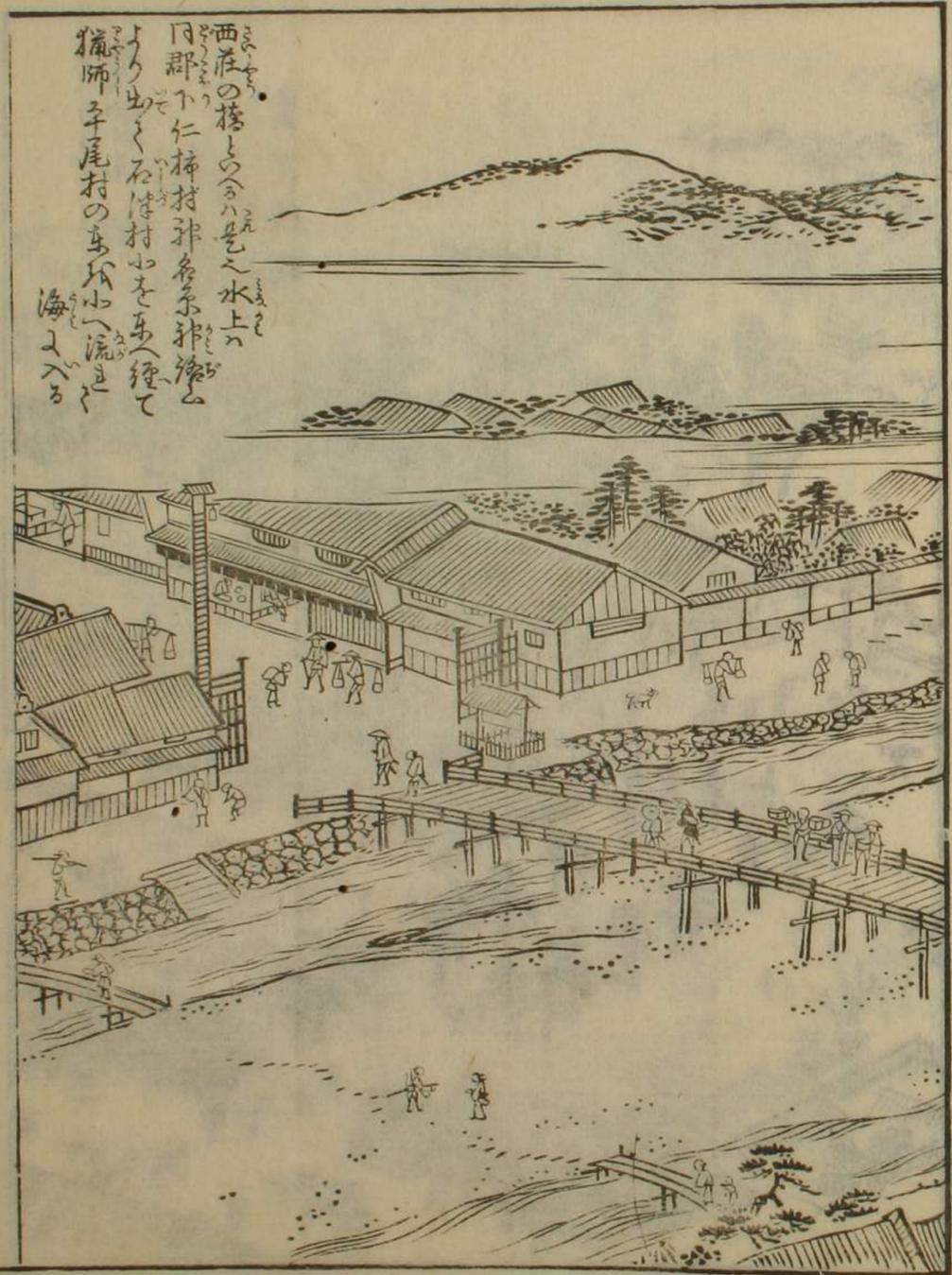
文保六年百首

度會元長

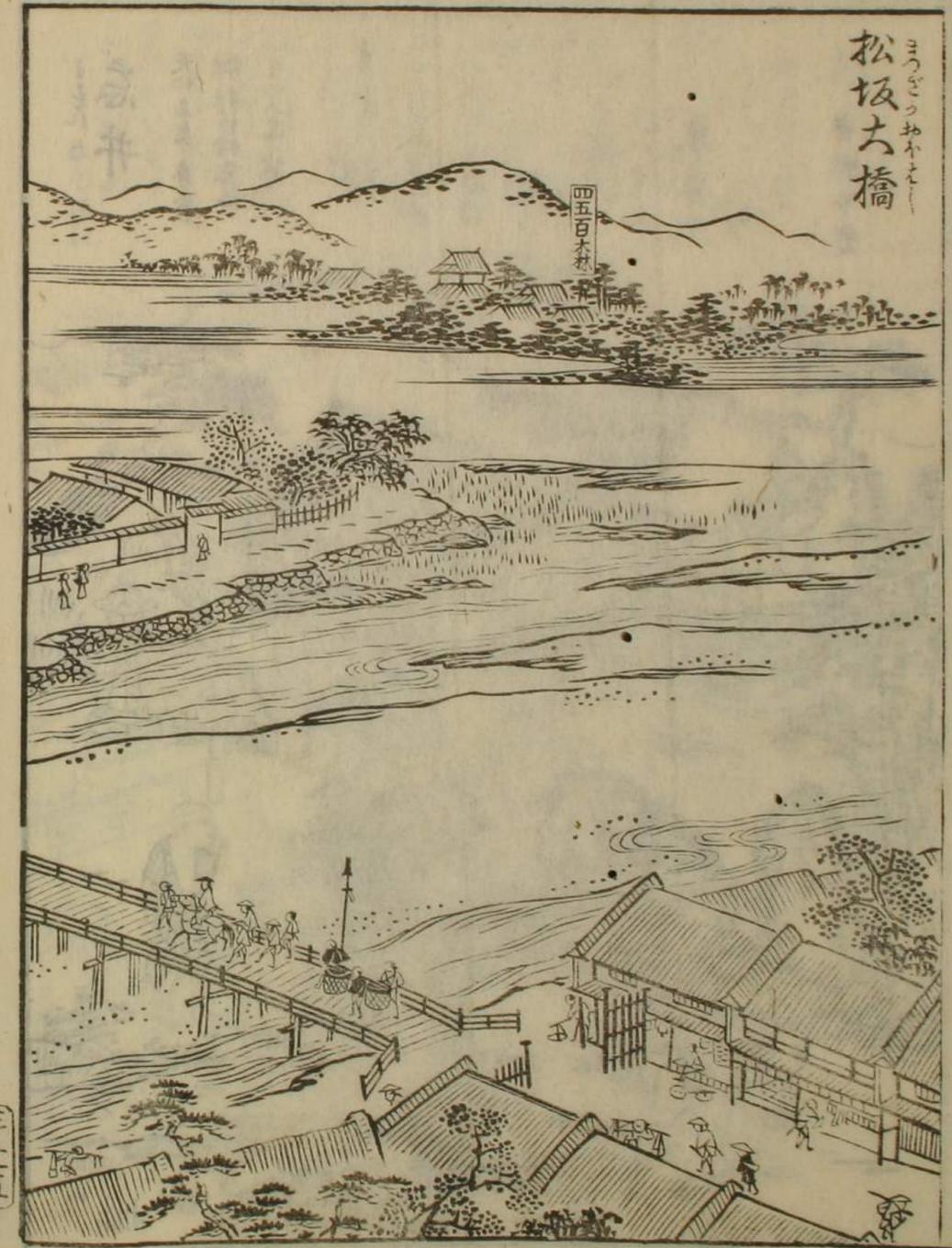
長明

阿保

三ノ丸



西庄の橋より見る水の上
 月郡下仁持村非名系非名
 橋師子尾村の舟小川流る
 海へ入る



松坂大橋
 四百五

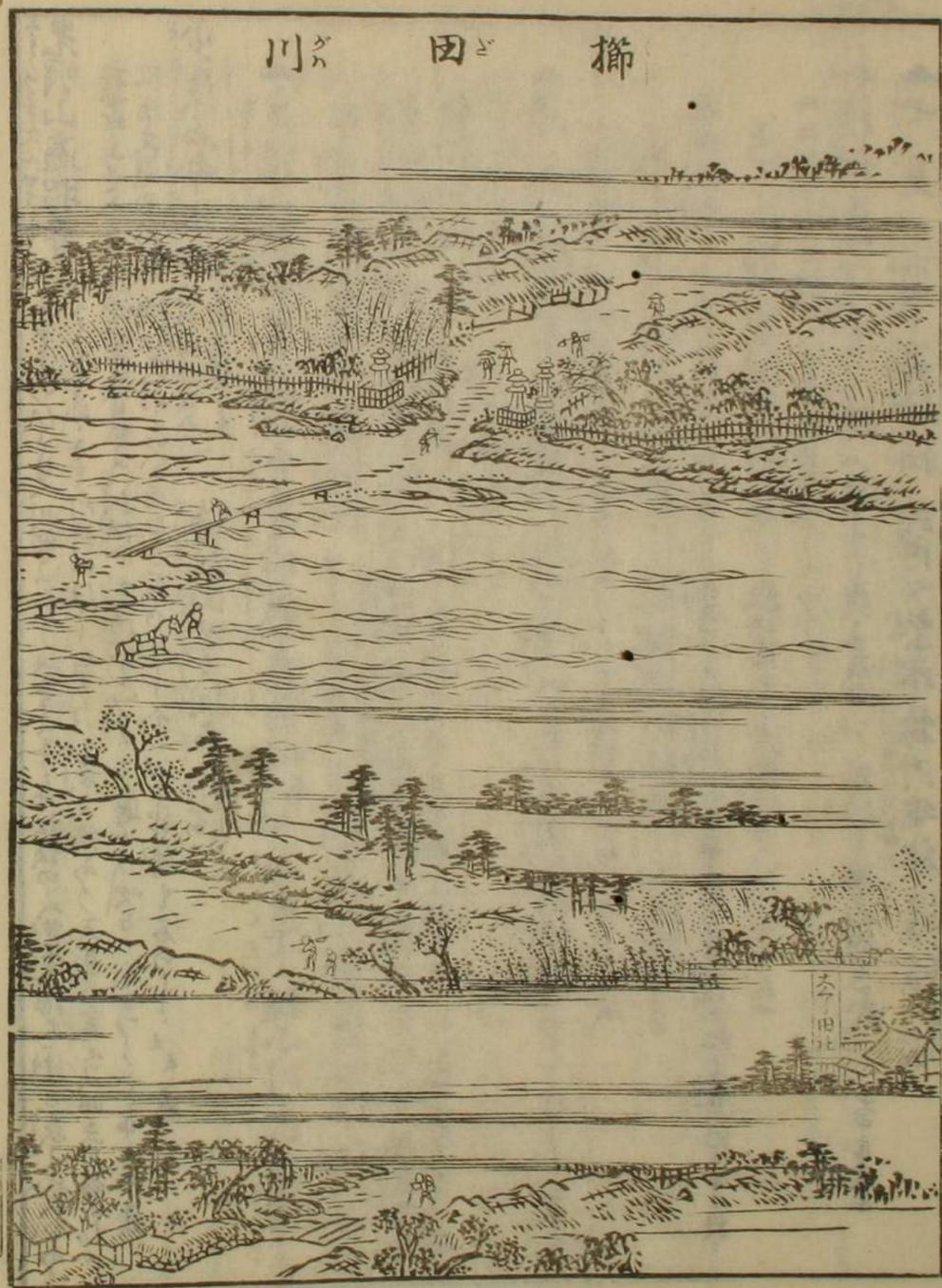


けり昔秘宮櫛をなごり
 終入殿をまらたうりて櫛田川と
 又之首の下極小川は此所へ出と宮
 川へ流るると

きんが
 川
 神の
 事
 御
 櫛



櫛 田 川



▲**意懸神社** 飯高郡の南にありて、聖武天皇十一年癸丑十二月廿八日飯高郡の宮

と移しては、奉養其祠也。飯高郡時代、今是を神鏡宮と神三の林神

飯の宮と云。按るに、意懸の神は、飯高郡の南にありて、今は飯高郡の南にありて、

下樋小川 右の宮の東に小川ありて、是を

▲**下樋小川** 右の宮の東に小川ありて、是を

此川は、獲して是より、珍の香を止む。今、

▲**柳田** 本名を赤村と云ふ。今、

▲**柳田社** 糸神大若子命

▲**糸神大若子命** 今、赤村町の北にありて、

▲**柳田社** 糸神大若子命

▲**柳田社** 糸神大若子命

▲**柳田社** 糸神大若子命

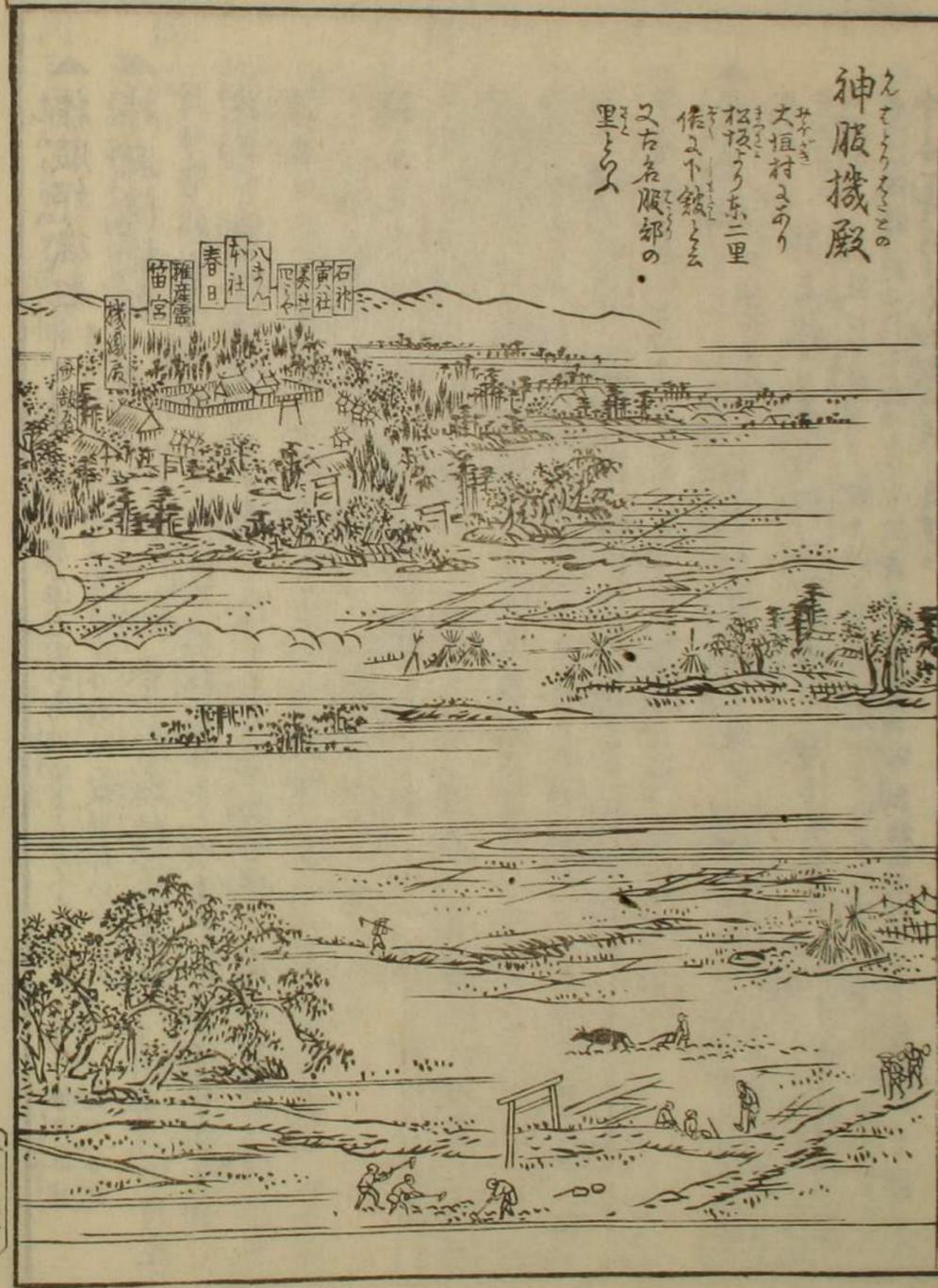
▲**柳田社** 糸神大若子命

▲**柳田社** 糸神大若子命

▲**魚見社** 川崎村にあり



神麻綾織殿
 舟に村あり倦
 上鏡といふ名
 御糸の里
 〇は東海多岐
 紺鏡とらう



神服織殿
 大垣村より
 松原より東二里
 作より鏡とらう
 又古名服部
 里といふ



稲置川 舊名竹川
 又後川とも云
 昔勅使を安んじしう(ま)りて
 後を修(お)りし式ありしに
 遊境の後として下樋小川
 の後(あ)を境として
 今(いま)宮川(みやがわ)にて其(その)式
 ありとぞ

○三冊(さんさふ)神(かみ)東(あづま)の村(むら)あり
 森(もり)あり是(こゝ)を後(あ)の
 森(もり)といふこれ
 古(ふる)なるか

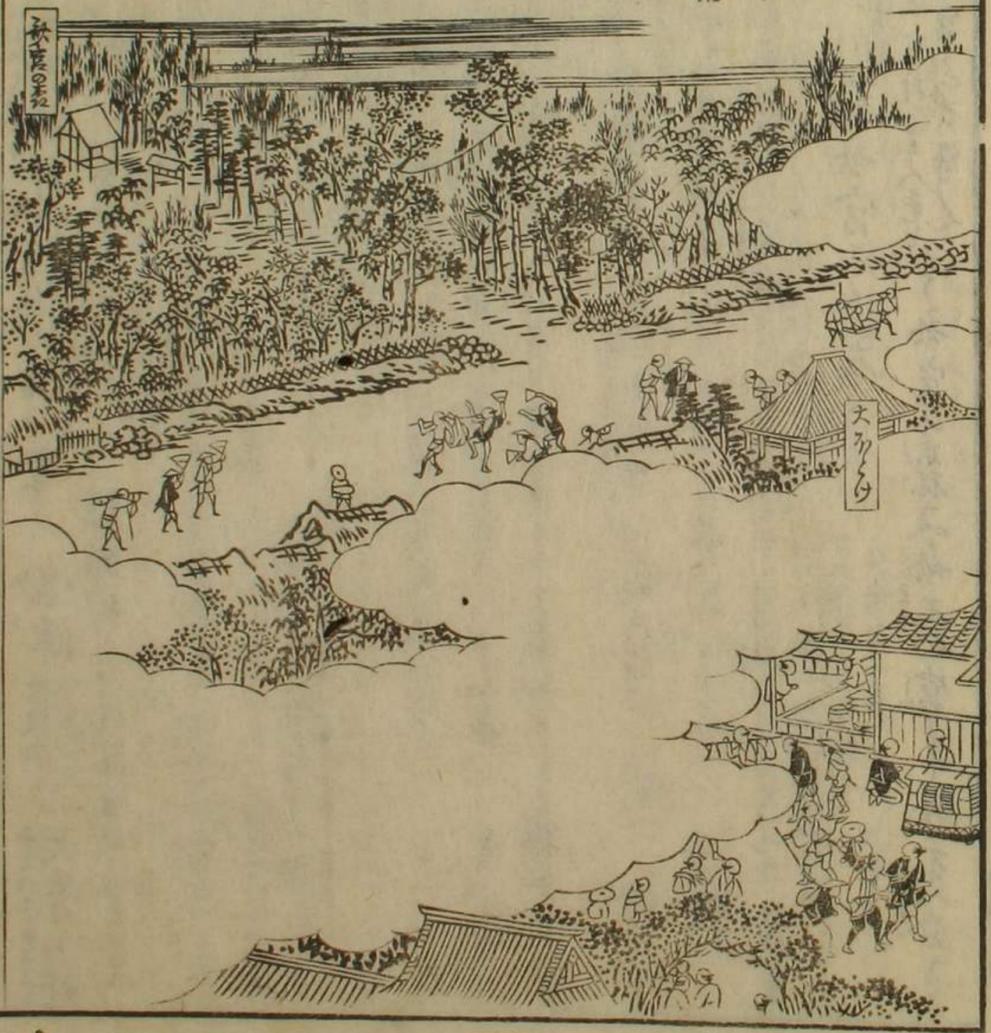
齋宮村
 齋宮の村
 和泉屋
 御幣使休

齋宮旧跡

齋宮の村
 和泉屋
 御幣使休
 齋宮の村
 和泉屋
 御幣使休
 齋宮の村
 和泉屋
 御幣使休



世とはさふふ一本
 今更本の名居海を
 今更本の名居海を
 今更本の名居海を
 今更本の名居海を



大園王神社 云御祖神社 六根村より此不 保津 六根の ○天香山社 保津

多氣川 一名 楠本川 又 後川 今の姓来より北より古道あり昔より勅使と云ふ

通へたり後と傳へたるの式あり左は後戸の森林と云ふもあり今ハ宮川と云ふ其

式は後宮御神の御も若狭の御あり一之 源大木伊勢の境に記されたり

此の浦より都持の海邊とある。ま 実画上に記す

再拜橋 幸そ一 後川の傍に東小島あり勅使参り向の所より川よかけ一橋あり

竹川の橋のほちちなる花園に我をはゆるせ免す。一人も 漢人不知

今此橋の跡は川に流され又小見渡の跡あり一かひは川色は緑ありともつり。姓来の

齋宮村 全別坂のついでに昔 齋宮あり又号く 女官の墓と云ふ

齋宮舊蹟 即齋宮村に里人老と 今齋宮の本村又敏王の宮と云ふ

齋宮齋王の別依あり 秘宮の御日の齋宮の御日 敏王の御日 敏王の御日 敏王の御日 敏王の御日 敏王の御日 敏王の御日

竹の宮まうたふ 入てみ代まもほい秘多んこの君そこれ 俊成

皇太后の御杖の代とて 安まうたふ 希しめ 後宮の御杖 希しめ 後宮の御杖

王の額みさせ給ひ都の方へ 送らせ給ふと勅定のみ是を別々の櫛と云ふ

齋宮渡船 垂仁天皇二十六年の比 倭姫命と云ふ其の齋宮の度會郡守

治の御又十鈴川上の大宮の跡 系約天皇二十五年庚寅倭姫命多既み

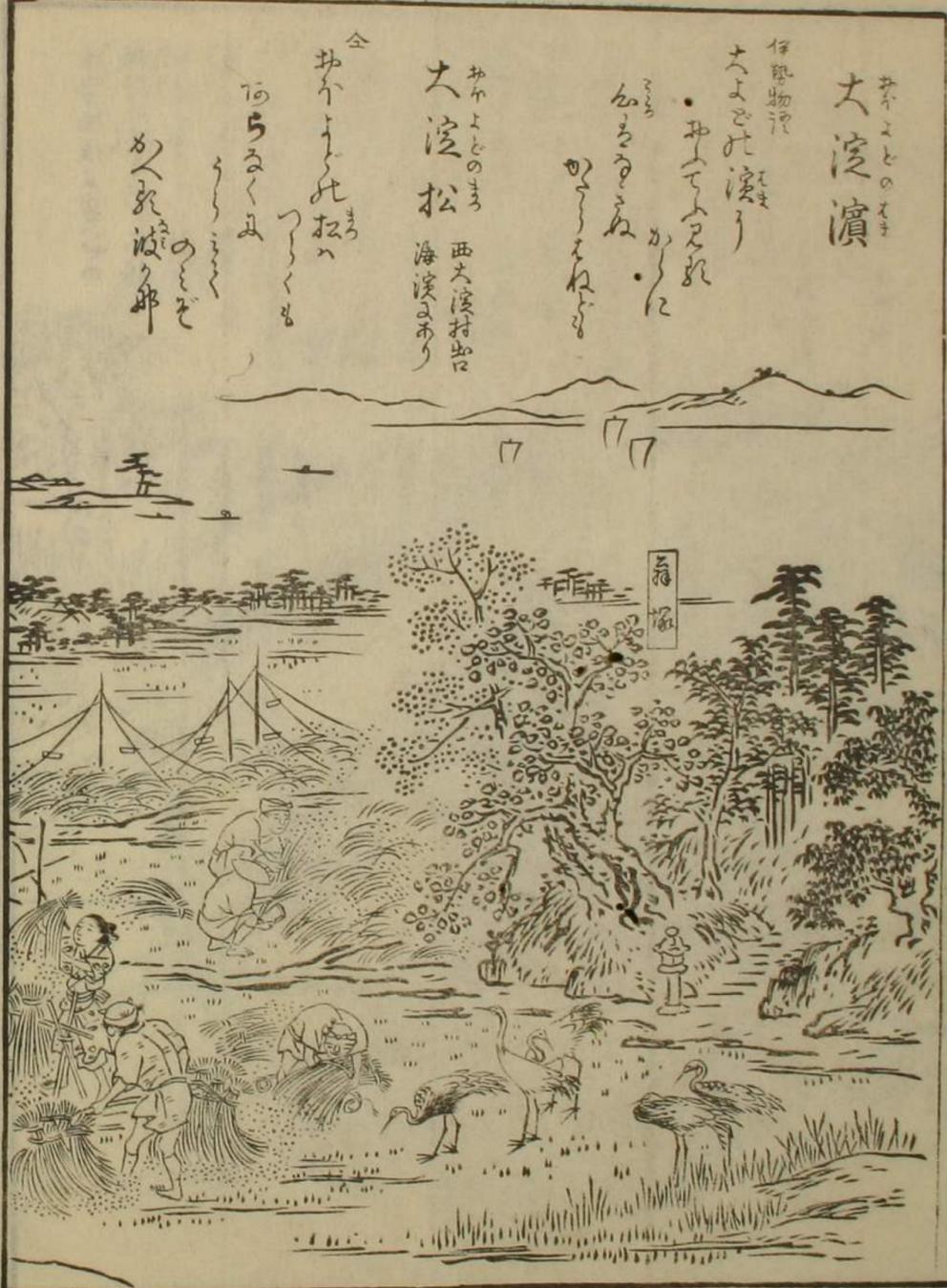
老老てはくまらるる みとて景行天皇第五の御女五百世皇女久須姫

大淀濱

伊勢物語
大よこに濱う
舟にてよるに
かき
かき
かき

大淀松 西大淀村出
海濱あり

あかよこのま
あかよこのま
あかよこのま
あかよこのま
あかよこのま



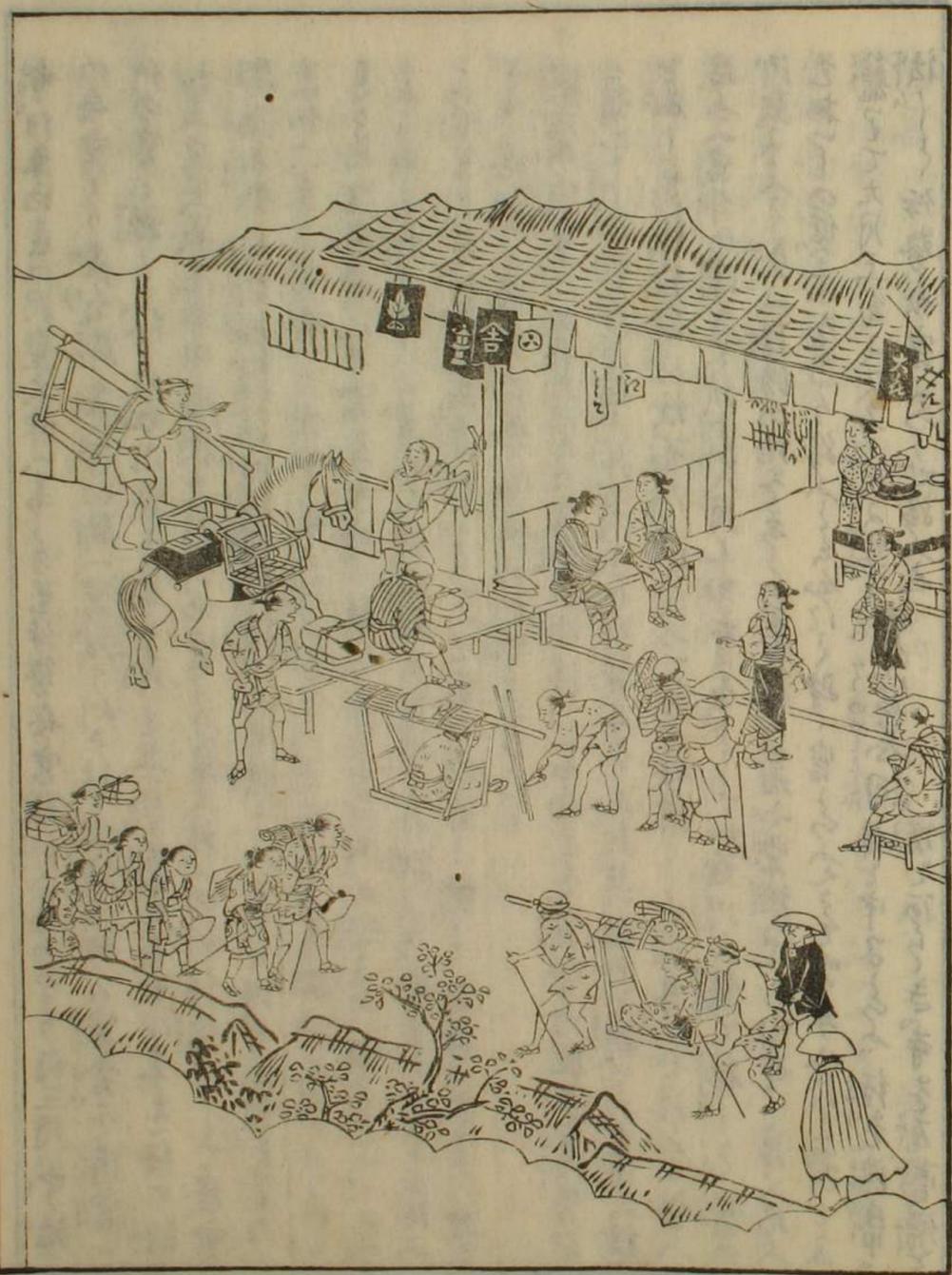
三ノ三五

建保合能宗

大よこに浦
あそよ日くげ乃
あそよ日くげ乃

けい
あそよ日くげ乃
あそよ日くげ乃
あそよ日くげ乃
あそよ日くげ乃





所名

をみて年の暮を去るよりの... 此の里何處の石とも志れず... 大佛のたかり 達光寺と云ふ... 此の里の右に... 大佛のたかり 達光寺と云ふ... 此の里の右に... 大佛のたかり 達光寺と云ふ...

所名

竹川の橋の清なる花その我をばゆりせめさ... 思ひやろつ川に宮のたかりて花咲のころかき門をこく那 馬家

所名

花園 此の里の右にあり... 花園のたかり... 花園のたかり... 花園のたかり...

所名

御溝池 御溝の池と云ふ... 御溝の池と云ふ... 御溝の池と云ふ...

所名

北島屋敷 今上まゝに村と云ふ... 北島屋敷... 北島屋敷...

所名

勝田 和屋 此の里の右にあり... 勝田の池と云ふ... 勝田の池と云ふ...

所名

公羽塚 勝田の家の宝物と云ふ... 公羽塚... 公羽塚...

所名

藤原 此の里の右にあり... 藤原の池と云ふ... 藤原の池と云ふ...

所名

淡村 真名胡神社内宮末社の内之祭神未詳... 淡村... 淡村...

所名

根倉 佐くまの神社式内之祭神大歳神... 根倉... 根倉...

所名

根倉神社 不祭字賀御意神 國御祖神社 不祭士御祖神社... 根倉神社... 根倉神社...

所名

月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる...

所名

月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる...

所名

月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる...

所名

月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる...

所名

月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる...

所名

月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる...

所名

月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる...

所名

月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる...

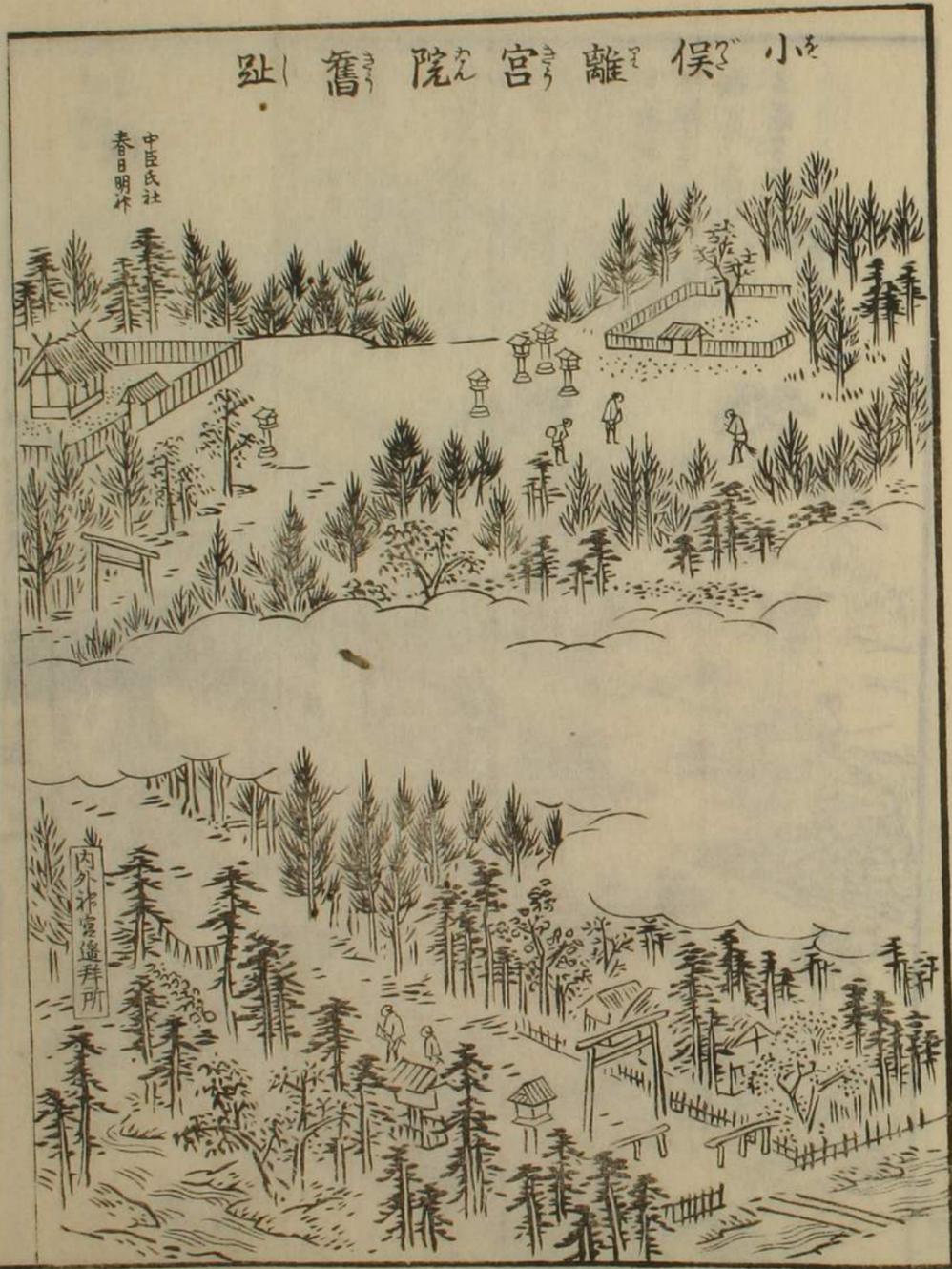
所名

月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる...

所名

月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる... 月夜にそびえたる...

小俣 離宮 院 舊 趾



所名

▲大渡濱 大渡の濱あり昔倭姫命皇女神の神輿を運回方と ○大渡松 大渡の濱あり昔倭姫命皇女神の神輿を運回方と

大渡の沖積叢生にありぬらん神さひひりて於破の姫まの 兼隆

此松延室多中大風と倒すと其後の沖積官其殿今この松と柱て自二首の首をそへり

歳子経て朽けり松と大渡の恨とて帰る波又回とや

君くも女経くそわつる大渡の松れまも母ハ八子代をそへり

▲大与栢神社 母大松をんで文基を仰り長安者又用ひりて 祭神 豊玉彦神 云々式内之 ○駒除池 日神の御子

▲村松岸 大渡の東の村ありて沖積幸の地なり

▲宇田 天海回水大乃自神社 祭神 豊玉姫命 毎宮の南神の東の内あり

▲有介 田丸より一里山 ○有介神社 祭神 天徳日命 土師氏の祖神 あり右例

所名

▲曙の宇田の畔 曙の宇田の畔より三鴨のよりくきや万代のりぞ 俊頼

▲宇田 天海回水大乃自神社 祭神 豊玉姫命 毎宮の南神の東の内あり

▲有介 田丸より一里山 ○有介神社 祭神 天徳日命 土師氏の祖神 あり右例

▲大与栢神社 母大松をんで文基を仰り長安者又用ひりて 祭神 豊玉彦神 云々式内之 ○駒除池 日神の御子



河川

○高宮より上流本
 づりもたまりぬ
 左方より

小俣社

小俣

○是より南は田丸村あり
 村中田丸禪正大弼の霊祠
 田丸城、虎藏主康基寺
 西八岩手、波祭主家宅
 畠、相可入、相可上社
 所、山田、宮寺、
 伊藤野山、本多社、
 伊藤神社、伊藤山、
 飯高、高宮、比余
 名區多々あり
 此又畠と



三ノ四十

久 樹ぬへに板田のてし此樹はくろふまにむつらうつれくる
契沖吐懐編云續後拾遺
をばあきの板田の樹のこほまといけさうゆらん急な我せこ

此教義多き者十一あり先の教の基を本教とせりをわづらひて浮りてあまふたの小銀田とよめる日本紀又いふをたるとはたうこれら大和國高市郡小銀田の宮とて推古天皇のまきりたる宮之を又付く板田の樹が若くはたむる市郡たうりふあまふたうり又板田の板田の浮りたるをいふまされが板田の樹勢及の名とせりいふまふたのまきまきうり神又文のををたるといふつとて浮り来るうらうり必たわの名をわたり

○小俣神社 今八王寺といひて 祭本倉桶魂命外宮の末社 ○無量寺 安永末寺末

○離宮院 小俣の西より九里あり 一和祭豊受大社宮 たるは湯田村より 雄田宮天皇

二十二年七月七日豊受宮を丹後國与謝真名丹原より迎なる付度會郡

沼本御平尾又新宮を建て三月月望し移すこれを離宮とすなる其

後高河原宮又移して後延暦十六年八月三日此湯田御宇有西

村又移すとあり 是は御内親王の離宮移りなり其御内親王離宮院の考徳天皇

移すと云是其後に明天皇和六年十一月六日御宮遷上り付湯田の離宮院と云宮と及

物なりとい外宮の離宮ありしをさ川入引しより移りて御宮の上りて外宮の所不と云ふ

たり又屯倉も二不ありて大座ありしを其後の女王も勅使も此院にて宿らせ移りて

三ノ四十一

所名

例抄 神宮雜記の次第 卷二 其後 齋王と大宮司 長長 長長 再 眞 眞

中臣氏社 離宮院の 足いり津 磯が 磯と云ふにさしと離宮を湯田に

移さう付水難によりて共み移さうと雜例抄よりさうり則春日明神に

して祭主宮司の祖神さばは成なる。此本に首十員の祿宜あり

本宮及移さう付皆供奉せり其内一家上田久美と云人此又移さう

久美が名今 齋王屋上の外宮宮の上 齋子の社ありんがなりとて 齋してさうく社のうり

久美まの名なり

▲未曾濃 宮川の下海 此石まき海苔の名物とそせのりしと云

○宮川のまき(さうり)あのかりてさうりやうりさうりやうりさうりやうりさうりやうり

いふさうりて水のちろそとつへいあの人海がさうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

伊勢參宮名所圖會卷之三終

本會為維持各商會之利益起見特將各商會之利益
 及各項事務之進行情形通告各商會
 一、本會之宗旨在於維護各商會之利益及促進各商會之合作
 二、本會之組織由各商會之代表組成
 三、本會之經費由各商會共同負擔
 四、本會之辦事處設在新加坡
 五、本會之秘書長由本會選出
 六、本會之各項事務由秘書長負責辦理
 七、本會之各項事務之進行情形將定期向各商會報告
 八、本會之各項事務之進行情形將定期向各商會報告
 九、本會之各項事務之進行情形將定期向各商會報告
 十、本會之各項事務之進行情形將定期向各商會報告

